挫折感に悩みながら一年間サバイブした日々

『若き数学者のアメリカ』

紹介者／本杉圭三氏
ビザ・インターナショナル・アジア・パシフィック・リミテッド
人事・総務部　部長

ビザ・インターナショナルの本杉圭三氏は「一年間の留学生活をサバイブすることに大きな力を与え、人生を変えてくれた一冊」として『若き数学者のアメリカ』を推薦する。『国家の品格』の著者として脚光を浴びた数学者の藤原正彦氏が、1972年に渡米した際のミシガン大学での研究員生活、コロラド大学での助教授体験などを綴ったエッセイだ。

「留学や赴任などで海外に行く方の中には、最初は意気揚々と渡航したものの、言葉の壁や文化の違いに挫折し、落ち込んでしまう方も多いと思います」。本杉氏も渡米直後はアメリカ人には負けられないと対抗意識を持っていたという。「けれどアメリカ人は、そんなことまで言うの？ と聞き返したくなるほどの自己主張をする。ディスカッション中心の授業では人一倍勉強しても勝てなかった」。ABC評価で「C」の成績を取り、部屋に戻って「日本へ帰りたい」と打ちひしがれたこともあった。「挫折感や疎外感を味わう日々でしたが、本書を繰り返し読み、高尚な学者でさえ、やっとの思いで過ごしていたんだと励まされたものです。これから海外へ旅立つ方、そうした部下を持つ方に一読をお勧めします」

本の中では藤原氏のガールハント挑戦や、日本語訛りを隠さず会話をしたエピソードも紹介され、「日本人としての気負いを壊し行動すること」の大切さを本杉氏は学んだという。「パーティーで現地の女性を誘ってみたときは、さすがにドキドキしましたが、多少言葉が下手でも海外に行って生活できた、気持ちを通わせられたという経験が、その後イギリスやフランスなど様々な国で仕事をする時の自信になったと思います」

著者／藤原正彦
新潮文庫
514円（税別）
1981年6月刊行（改訂版）

制約の中から創造を引き出す日本文化

『茶の本　The Book of Tea』

紹介者／和光貴俊氏
三菱商事株式会社
経営企画部
人事担当シニアマネージャー

『見渡せば　花も紅葉もなかりけり　浦のとまやの秋の夕暮れ』

「これは、茶の湯に侘びの境地を確立させた武野紹鷗が、その心を表すものとして用いた藤原定家の古歌です。『何もない』ところに想像力を働かせ、美や生命感を表現するという、日本人独特の価値観を歌った一首に、心を動かされました」

三菱商事の和光貴俊氏は、岡倉天心の『茶の本』の中で引用された古歌から語り始めた。本書は天心が英語で書き上げ、日露戦争後の1906年にニューヨークで出版。西洋諸国の人々に「茶の湯」の精神を通じて、日本人の美意識、思想の背景、文化を伝えた名著である。

「『茶の湯』には、重複や余分な動きを排する多くの決め事がある。その簡潔さや制約の中からよりダイナミックなものを想起する精神を、日本人は伝統文化として受け継いできました」。仕事にも、常に人材や予算、今までの常識といった多くの制約が付きまとう。それらは一見、不自由なものに見えるが、実は逆に仕事を面白くさせる要素なのだと和光氏はいう。また、天心がこの本を書き上げた当時の日本と、現在の日本がおかれた時代背景は似ているのではないかと指摘する。だからこそ伝統として受け継がれてきた普遍的な美意識や価値観を、日本人は忘れてはならないという。「この本には、特に今後、海外と接点のある仕事をする方にとって重要なヒントが詰まっています。自国の文化や精神を理解してこそ、国際社会でリスペクトされ、諸外国の人たちと本当の意味での信頼関係を結べるのではないでしょうか」

著者／岡倉天心、千 宗室（序と跋）
訳／浅野 晃
講談社インターナショナル
1200円（税別）
1998年3月刊行

未来を想像し
人生を情熱的に生きる

『出現する未来』

紹介者／永井恒男氏
株式会社野村総合研究所
経営コンサルティング部
上級コンサルタント
IDELEAチーム　事業推進責任者

野村総合研究所の永井恒男氏は、2005年9月、社内ベンチャー制度を利用し、エグゼクティブコーチングと経営コンサルタントを融合させたサービス、「IDELEA」（イデリア）という事業を立ち上げた。事業の理念に大きく影響を与えたのが『出現する未来』だ。本書は「学習する組織」を世に広めたピーター・センゲら著者4人が、「人類の危機を救うために、何ができるか」という問題をベースに対話を重ね、未来を作りだすプロセスを展開させながら、世界で活躍するリーダーのエピソードや社会変化の事例を多く紹介する。

「『まずスピードを落とし、自分自身と世界を深く見つめ、出現しようとするものと一体化する』という一節があります。リーダーは、様々な問題に突き当たる。その時は一度、自分の価値観と組織や社会を俯瞰することで、将来の展望を見つめ直す機会が必要なのです」。イデリアは、経営者やリーダーと対話を重ねながら課題や改善点を気づかせ、問題解決へ導くプログラムだ。「経営者のビジョンが明確になって、組織も一体感が高まり業績を上げたケースなど、多数の成功事例が報告されています」。永井氏は、リーダーがそれぞれ自分の価値観に沿った道を情熱に生きる社会を実現させるため、事業を展開していきたいという。

「この本を読みながら、自分が出現させたい未来を思い描いてほしい。大切な夢、ビジョンが発展したら組織や社会はどうなるか、そのために自分は何をするべきかを考え、人生をより情熱的に過ごして欲しいと思います」

著者／ピーター・センゲ、C・オットー・シャーマー、ジョセフ・ジャウォースキー、ベティー・スー・フラワーズ
監訳／野中郁次郎
訳／高遠裕子
講談社
1900円（税別）
2006年5月刊行

自分に素直に生きることが
コミュニケーションの秘訣

『自分の小さな「箱」から脱出する方法』

紹介者／山内信世氏
アクセンチュア株式会社
人事部　マネジャー

日常業務の中で、避けて通れないコミュニケーション上の些細なトラブル。円滑に仕事を進められるよう解決策を探していたアクセンチュアの山内信世氏が推薦するのは『自分の小さな「箱」から脱出する方法』だ。「私はコンサルティング会社で人員の配置を担当するチームをマネジメントしています。この人はどの配属部署が適しているか、あの部署はどのようなスキルの人が必要か、など日々考え、人間関係やコミュニケーションの難しさに、いつも頭を悩ませていました」

本書は物語形式で、ある会社内の出来事として話が展開される。人間関係や仕事が上手くいかない原因を細かく分析。周りで起こる人間関係のトラブルは実は全て「箱」にたとえられる、主人公の「自己欺瞞」が原因であることを説き明かす。「主人公は周囲から仕事を任され、高い評価も受けています。身の回りに起こるトラブルは、周囲の人間に原因があると思っているところも、私と重なる部分でした」。

一生懸命頑張っているのになぜ上手くいかないのか。つい環境が悪い、チームが悪いと思ってしまうことがあったと山内氏はいう。「そんな時、この本を読んで意識を変えられたのです」。仕事上のコミュニケーションや人間関係も徐々に改善され、何よりも笑顔でいる時間が増えた。「困っている人に声を掛ける、自分から挨拶をするなど、小さなことでも『箱』に入っているとできないことを意識するだけで大きく違います。自分が感じたことを素直に行動に出すことで、仕事に限らず日々の生活を気持ちよく過ごせるのではないでしょうか」

著者／アービンジャー・インスティチュート
監修／金森重樹
訳／冨永 星
大和書房
1600円（税別）
2006年10月刊行